

アトピー性皮膚炎の治療における Proactive 療法とは？

Q：アトピー性皮膚炎(atopic dermatitis；AD)の治療において Proactive 療法があると聞きましたが、今までの治療とは違うのですか。

A：AD患者の多くは、急性期にステロイド外用薬やタクロリムス軟膏などの抗炎症外用薬を集中的に使い、寛解導入後は保湿剤のみを使用しています。これに対して Proactive 療法では、急性期に抗炎症外用薬を集中的に使用する点は従来と同じですが、寛解導入後も抗炎症外用薬を週1～2日程度継続して塗布します。このように再燃前に予防的に抗炎症外用薬を塗布しておくのが Proactive 療法の特徴です。

アトピー性皮膚炎(AD)の薬物治療では、ステロイド外用薬やタクロリムス軟膏などの抗炎症外用薬を使用して寛解へ導入し、その後は保湿剤で寛解の維持を図るのが一般的です。しかし、保湿剤への移行後に炎症の再燃がみられることもあり、これは一見回復したように見える皮膚でも炎症が完全に治まっていないことに起因しています。そこで、炎症が再燃してからではなく、再燃する前に抗炎症外用薬を塗布する Proactive 療法が試みられています。

【 ADの病態 】

AD患者の病変部は健常人と比較して角質の水分量は60%程度です。また、炎症が軽快して一見正常に見える皮膚も、組織学的に見ると過角化、有棘層肥厚、リンパ球の浸潤などがあり、炎症が完全には消失していないことが示されています。このように、ADにおいては、寛解が得られたとしても炎症細胞は残存しており、再び炎症を引き起こしやすい状態にあるといわれています。

【 ADの寛解維持療法 】

ADの治療は、寛解導入療法により寛解を達成することが最初の目標となります。寛解導入療法では、ステロイド外用薬またはタクロリムス軟膏の連日塗布によって炎症を制御し、皮疹を消失させます。ADの寛解導入後は、寛解維持療法に移行します(図1参照)。治療を中止すると症状が再燃することがあるため寛解維持療法を行うことがあります。

Proactive 療法はすでに海外では多く試みられており、保湿剤のみの外用療法と比較して治療継続率が高いこと、また、Proactive 療法を行った場合、皮膚炎やかゆみの改善効果が長期間維持できることが示されています。

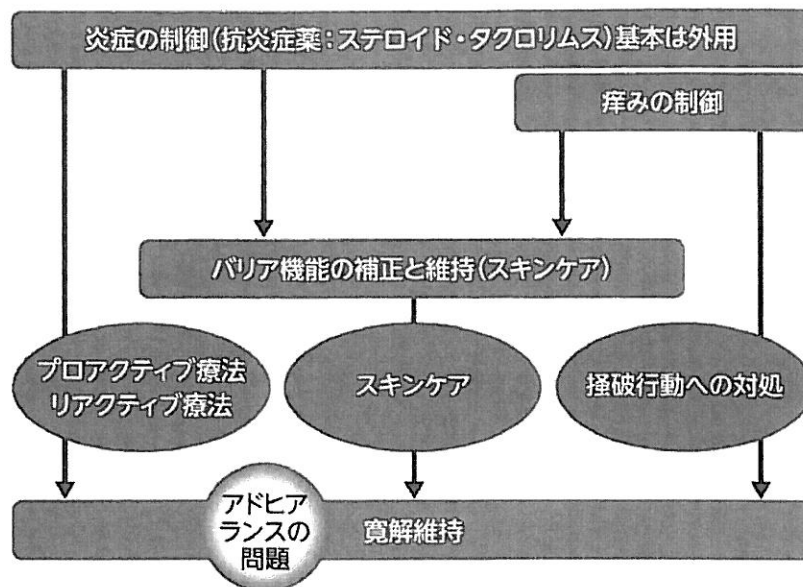


図1. アトピー性皮膚炎の寛解維持療法 (参考資料3より)

【 Reactive療法とProactive療法 】

AD患者の多くは、急性期にステロイド外用薬やタクロリムス軟膏などの抗炎症外用薬を集中的に使い、寛解導入後は保湿剤のみを使用しています。この場合は炎症の再燃時に再び抗炎症外用薬の塗布が行われます(Reactive療法)。これに対して、Proactive療法では、急性期に抗炎症外用薬を集中的に使用する点はReactive療法と同じですが、寛解導入を図った後は保湿剤によるスキンケアに加えて皮疹があった部位に抗炎症外用薬を週1～2日程度塗布します。このように再燃前に予防的に塗布しておくのがProactive療法の特徴です(図2参照)。

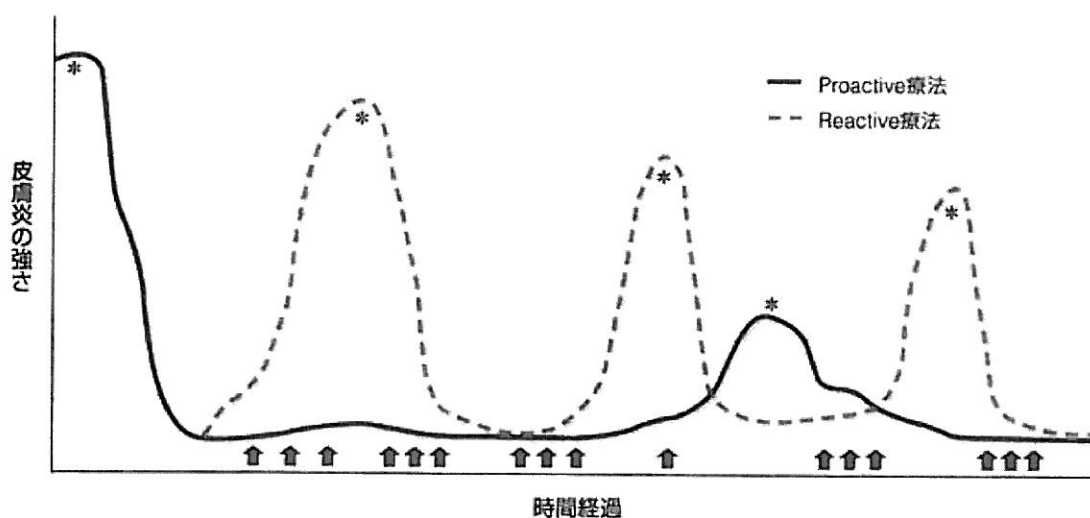


図2. Reactive療法とProactive療法 (参考資料4より)

【 入浴時のチェックポイント 】

石鹸やシャンプーなどの洗浄剤は、乾燥が強い場合には敏感肌用の低刺激性のもの、弱酸性のものを使用することが勧められます。また、パラベンなどの防腐剤が添加されていると刺激性の皮膚炎を起こす場合があるので、できればパラベン無添加の洗浄剤のほうがよいでしょう。入浴時のスキンケア指導チェックポイントについては表1をご参照ください。

表1. 入浴時のスキンケア指導チェックポイント

| |
|--|
| ■ 石鹸を十分使用しているか？ |
| |
| ■ 石鹸は泡立てているか？ → 洗顔ムースを利用する手もある |
| |
| ■ 洗うときは素手か？ タオルか？ |
| → なるべく素手で洗うのがよいが、タオルを使う場合は、きめの細かい、 皮膚に傷をつけないものを使う |
| |
| ■ 顔面も石鹸で洗っているか？ |
| |
| ■ 湿疹の部分も洗っているか？ |
| |
| ■ 最後にしっかりすすいで石鹸を洗い流しているか？ |
| → 石鹸が皮膚に残ると、バリア機能の破壊につながる |
| |

(参考資料3より)

また、不足している皮脂や天然保湿因子、細胞間脂質などの物質を補うために、保湿剤を塗布してバリア機能を補正する必要があります。洗浄するたびに皮膚のうるおいは失われるため、入浴・洗浄後は必ず保湿剤を塗布します。子どもはもともと皮脂が少なく、そのことが小児にADが多い原因の一つとなっているといわれています。このため、思春期になって皮脂の分泌が盛んになるまでは十分な保湿が必要で、それがADの予防・治療に及ぼす効果は大きいと考えられます。

【 参考資料 】

- 1) 日アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2012
- 2) 日本薬剤師会雑誌, 65(8), 911, 2013
- 3) 日経DI, No.182, 2012
- 4) 薬局, 64(6), 113, 2013
- 5) 鳥居薬品ホームページ(<http://www.torii.co.jp/>)